

科目名称：	中級日本語Ⅱ	
担当者名：	桜井 正美, 長田 明子, 田中 裕子, 寺崎 祐子, 鹿野 みどり	
区分	授業形態	単位数
留学生別科に関する科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
「中級日本語Ⅱ」にひきつづき、初中級から中級レベルの文法を習得し、本科へ進級後の活動が円滑に行われるようにする。また日常生活に必要な会話能力、聴解能力を更に向上させ、まとまりのある読み物を読んだり、身近なことについて詳しく表現したりする力を養う。		
授業の達成目標・到達目標		
初級日本語Ⅰで習得した初級日本語の定着と運用力を高め、中級レベルの表現、語彙を学び、更なるコミュニケーション能力の向上を目標とする。そのため、能力試験N2レベルの文法や異文化理解を促す読み物、実践的な場面での会話例や聴解などが網羅されたテキストを十分に消化することを到達目標とする。		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	60		15	25	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《氏名・内容》 桜井 正美 石川県国際交流協会における授業等	《経験年数》 25年
	《氏名・内容》 長田 明子 石川県国際交流協会における授業等	《経験年数》 19年
	《氏名・内容》 鹿野 みどり 石川県国際交流協会における授業等	《経験年数》 12年
	《氏名・内容》 田中 裕子 石川県国際交流協会における授業等	《経験年数》 12年
	《氏名・内容》 寺崎 祐子 石川県国際交流協会における授業等	《経験年数》 10年

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間 (分)
第1回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 1課 文法	語彙・文法の予習(第1回)	30分
第2回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 2課 読む・書く	語彙・文法の復習(第1回)及び予習(第2回)	30分
第3回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 4課 話す・聞く(プレゼンテーション)	語彙・文法の復習(第2回)及び予習(第3回)	30分
第4回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 6課 文法	語彙・文法の復習(第3回)及び予習(第4回)	30分
第5回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 7課 読む・書く	語彙・文法の復習(第4回)及び予習(第5回)	30分
第6回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 9課 話す・聞く(プレゼンテーション)	語彙・文法の復習(第5回)及び予習(第6回)	30分
第7回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 11課 文法	語彙・文法の復習(第6回)及び予習(第7回)	30分
第8回 「みんなの日本語中級Ⅰ」 12課 読む・書く	語彙・文法の復習(第7回)及び予習(第8回)	30分
第9回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 14課 読む・書く	語彙・文法の復習(第8回)及び予習(第9回)	30分
第10回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 16課 文法	語彙・文法の復習(第9回)及び予習(第10回)	30分
第11回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 17課 話す・聞く(プレゼンテーション)	語彙・文法の復習(第10回)及び予習(第11回)	30分
第12回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 19課 読む・書く	語彙・文法の復習(第11回)及び予習(第12回)	30分
第13回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 21課 文法	語彙・文法の復習(第12回)及び予習(第13回)	30分
第14回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 22課 話す・聞く(プレゼンテーション)	語彙・文法の復習(第13回)及び予習(第14回)	30分
第15回 「みんなの日本語中級Ⅱ」 24課 読む・書く	語彙・文法の復習(第14回)及び予習(第15回)	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、語彙・文法の復習及び予習・発表準備をすることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 宿題 15%、授業への積極的関与・授業内での発表(プレゼンテーション)等 25%の総合評価		
課題に対するフィードバック		
授業内での発表(プレゼンテーション)について、コメントをフィードバックする。		
教科書・参考書		
教科書:『みんなの日本語中級Ⅰ』『みんなの日本語中級Ⅱ』『中級 新毎日の聞き取り50日』 参考書:『みんなの日本語中級Ⅰ 翻訳・文法解説書 各国語版』『同Ⅱ』 以上スリーエーネットワーク発行		